

理事会の動き

第89回理事会報告

平成元年10月21日(出)に第89回理事会が、藤沢駅北口の角若松で開かれました。

8名の役員が出席し、次の通り審議・決定されました。
 (一) 素心学院の将来構想について 田代施設長より、学院の現状、学院をとりまく状況、今後予想される周囲の変化、学院の今後の展望について資料をもとに説明があった。各理事より次の様な意見が出されたが特に決定という形はとらず、懇談という事で終了した。
 「今後、場所(土地)と人手(マンパ



後援会

後援会

毎月第四土曜の夜七時に平塚駅北口パールロードにある「ウィーン」という喫茶店の片すみに、いつものメンバーが集まっています。

「ウィーン」は今時めずらしい古風なムードの喫茶店で、その片すみでコーヒーをすずりながら、ひととき集まったメンバーの近況報告や悩みやグチの言い合いになります。頃合いをみて、「それでは運営委員会を始めます」という事になり、各委員会からの報告がなされます。

後援会加入のお誘い

みなさん〓素心学院後援会に加入しませんか。
 私達は素心学院の運営を側面より援助し、わずかでも障害者の福祉に寄与できたらという主旨で、後援会活動を行なっています。
 会員一人一人の事情にあわせて無理のない、いろいろな協力や参加の形を考えております。

- 主な活動内容
- ① 会員をふやそう!
 - ② 資金を集める為にバザー等を行なおう!
 - ③ 素心学院でボランティアをしよう!
- 会費は年額 一口1,000円です。会員には素心学院新聞が郵送(年2回)され、また毎年5月には総会が開かれます。

入会案内書をお送りいたしますので、後援会事務局までご連絡下さい。

素心学院後援会会長
水沢 孝 幸
 ●事務局
 〒259-01 神奈川県中部大磯町虫窪24
 素心学院内 [担当一彦坂]
 Tel(0463)71-1255 番

とが大切だ!等。
 (二) その他、来年初立35周年を迎えるが、その内容については、守水理事長、田島理事、田代理事の3名で原案を作成し、理事会に提案する事となった。

彦坂さん。そして学院側として田代施設長と彦坂事務局長。最近は大東京火災海上の鈴野さんやトヨタオート神奈川の野島さんなども顔を見せる事が有ります。
 「ウィーン」は今時めずらしい古風なムードの喫茶店で、その片すみでコーヒーをすずりながら、ひととき集まったメンバーの近況報告や悩みやグチの言い合いになります。頃合いをみて、「それでは運営委員会を始めます」という事になり、各委員会からの報告がなされます。

ボランティア委員長の彦坂さん

は毎回ワープロで作った文章による報告で感心させられます。その後、学院側からの報告や要請があり、又バザーや予算など、その時々々の話題について話し合います。七時から始まり八時半位には終了しますが、「それではこの後一杯やっつけていきますか」ということもありそうなる時、時間は果てしなく流れてしまう事になります。
 皆様もお気軽にこの集まりに顔を出してみてください。きっと楽しい、そして新しい出会いが始まります。後援会活動の基本はやはりこの人と人との出会いを大切にすることから始まるようです。
 今回は毎月開かれている運営委員会の様子をお知らせしました。

が三、〇〇〇部突破

毎年暮れになると皆様方にご協力いただいておりますカレンダー。今回は頒布数が一万部を大きく越えて、11月30日現在二、三〇〇部。担当者は電話のベルが鳴るたびに、うれしい悲鳴の連続。
 山武ハネウエル労組・日産車体労組・横浜ゴム労組・エヌシーアイル・皇徳商事・御釘萬信米タイル技研・パチンコ・ワールド・(株)ジュー(敬称略)等々の大口のお申し込みから個人のお申し込みまで皆様方の温かいお力添えに関係者一同感謝しております。

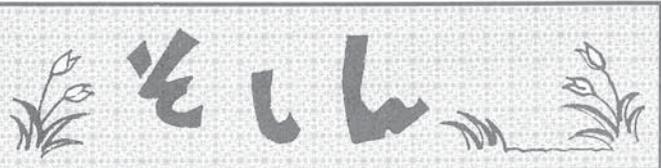
編集後記

▼明けましておめでとうございます。読者の皆様、本年もどうかひとつ宜しくお願ひ致します。「オ二」となるには修行がたいへん。まずは強健な肉体が必要ですが、それには「暮らし」にも共通する様に思っています。

▼暮らしは、人の数だけ、ありますが、楽しく、のびのびと暮らしたいという願ひはどの「暮らし」にも共通する様に思っています。
 ▼ひざの上には猫たち。あられもない姿でカーペットに寝ている。さっきからポットを取りたいのだが一寸手が届かない。足を動かそうとすると落ちまとい爪を立てる。負けた、動けない。幾度も挑戦するのだが結果は同じ。まあいいか。猫のぬくさには変えられないもんね。(豆)
 ▼そして発行は
 神奈川県中部大磯町虫窪24
 電話(0463)71-1255
 社会福祉法人 素心学院
 素心学院施設長 田代哲郎

第 13 号

1990年1月8日発行



- FEDCBA
 北海道(11月・実習A班/ホーシ) 湯河原温泉(10月・回収C班)
 土肥温泉(10月・案内作業B班) 群馬・温宿温泉(9月・回収A班)
 忍野(9月・回収B班)
 堂ヶ島(11月・案内作業A班)

虫窪24番地

「朝」布団からなかなか起きない毎日。ぬくぬくの布団の中で想いは遠い世界へ……。
 小学生の頃、コークス当番なるものがあつた。コークスっていうやつは、何でできているのかわらないけれど、炭みたいな黒くて硬い。そいつを教室の片隅にあるオンポロの青銅色したタルマストープへ放り込み、紙に火をつけたのを入れてやると、だんだんそいつに火がついてきて教室があつたかくなつてくる。休み時間とか給食の前とかにコークスを足してやるのだが、ストーブのお腹を開けるとそいつが真っ赤になつてすぐくさいので、いつもみんな集まってきたりしてたっけ。みんなより30分も早く来て、コークスを運ぶついでにコークス当番。ガチガチにかじかんだ手がやっとなんだ頃、みんなが真っ赤な顔をして飛び込んで来る。ランドセルを放り投げ、一目散にストーブの周りに走り寄つて来てたっけ。中学生になった年、小学校へ遊びに行ったら、コークス置場がなくなっていた。用務員さんが、ヒーターになったのだと教えてくれた。さて、体もなじんで来たし、お米でもとぎに行くかな。(豆)

学院生活レポート

これも、すべて "そしん" の一日



Good Morning 六時十五分。まだ、他の人たちが寝ている中、早飯メンバーの一番手、Nさんが食堂に来て、男子二階当直の用意した朝食をとる。しばらくすると調理場の早番が出動し、調理場と食堂を間仕切るシャッターが開き、まさに「一日の幕開け」を感じさせる。「今日の朝はパンとコーヒート、あとはなに? たまご?」と大声で尋ねながら食堂へやって来るIさんに続いてKさん、Tさん、Aさん、Oさん、Iさんたちが、自分の出勤時間にあわせて身仕度を済ませ、食堂にやってくる。

6:30 am 起床時間
(日・祭は7:00AM)

もっとも早朝四時頃から、廊下を駆けまわっている元気な人もいたりして……

あちこちの部屋の電気がついて寮内が次第に賑やかになってきたなアという頃、早くもIさん、Nさんの「いってきまーす」の一声。Iさん、Nさんは六時三十分に出動する。続いてKさん、Tさんたち、早飯メンバーが次々に出勤するのである。……七時近くなると、殆どの人が身仕度を済ませ朝食までの自由時間を過ごしている。



一方、当直はまだ起きて来ない人たちを気にしつつ、手荒れ、顔荒れ、湿疹、水虫のある人などに薬を塗ったり(これを称して「えんべしとタイムと呼ぶ。えんべしとは、水虫の薬の名称、寝寝のひどい髪の人に対し、ブラッシングを行ったり「あれやっつて、これやっつて」という要求にひたすら応えて、寮内をパタパタしている。ちなみに、当直は男子一階、男子二階、女子寮のフロアにそれぞれ一名ずつ、勤務している。朝食は八時(日曜、祭日は八時三十分)から。配膳は、それより三十分前より始まる。

当直の職員二名が、配膳の係の人たち数名と、調理場の人たちと協力しあって、セルフ・サービスを行われない人達、三十数名分の食事をセッティングして、箸を上手に使えない人にはスプーンをおぼんやエプロン、葉の必要な人には、各席にそれぞれセッティング。配膳が始まる頃か、食堂の前には人だかりが出来、大勢の人たちが、配膳の様子をずっと見守っている。ロビーや居室でテレビを見ている人が多い。



朝掃除係の人
洗面所、脱衣所、廊下、玄関、面所など……各々、担当所を掃除。

八時になると、早番の職員が二名食堂へやって来て、配膳が終わっているか確認をする。そして、ようやく食事が始まる。そして、予め配膳された席に居る人は、手洗い後、すぐ食事をとるが、セルフ・サービスの人(五十人弱)は、調理場のカウンタに沿って一列に並び、各々おぼんを持って箸、おかず、ご飯、お湯、お茶といった順でおぼんに載せ、自分の席まで運んで行き、そこで初めて食事をとる。

食べ終わった人から席を立ち、食器を返却して、歯磨きやトイレに足を運ぶ。さっさと食べ終わって食堂を出る人とすれ違ひ、のんびりと遅れて食事に来る人や(時には、寝ずこして食事に間に合わない人もいる)、スプーンを片手にまだ眠そうに、ポットと人の食べる姿や、歩く様子を見るばかりでなかなか食事の進まない人など、食事のペースは人によって違っていて、九時近くになると、ようやく殆どの人が歯磨き、トイレを済ませ作業準備を取りかかる。



ごはんだ!
お腹を空かせた人たちが押すなど入ってくる。押すなど入ってくる。

当直の勤務はここまで。昨日から今までのみんなの様子を他職員に報告するため、職員室へと向かう。

9時 職員室では、朝の打ち合わせ(十五分程度)が始まる。その間、早番の職員がみんなのヒゲチェックをするなど、身だしなみの総チェックは、次の通り。

日中の時間配分は、次の通り。

9:30	作業
11:45	昼休み
12:00	作業
13:30	作業
15:00	作業
16:30	作業

※お昼休み。みんなと一緒に過ごすのは運番の職員。食休みと、午後の仕事に備えて、昼寝をして、人が割合と多い。天気の良い日などは、グラウンドのベンチに腰掛けて、日向ぼっこをしている姿もチラホラ。キャッチ・ボールをしている人も、お茶タイム、調理場の人たちが用意してくれる。私たちは、班の人数分のお茶とお菓子(食堂で受けとり、それぞれの作業室で食べる。蒸しパンやドーナツ、おしるこなどの手作りの物が、やはり人気が高い。

4時三十分 作業終了のチャイムが鳴ると、それぞれの作業室から寮へと、大勢の人が帰って来る。実習B班の人たちの作業終了時間は、五時。実習A班の人たちは、

各職場によって終了時間が異なっている。

「ただいま!」の声に応じるのは当直職員。

男子の介助入浴が始まるのは、四時三十分。介助を必要とする人たちは「月水金」と「火木土」のいずれかのローテーションで入浴する。

日曜の自由入浴
五時三十分。夕食の配膳が始まる。学院の食事は、みんなの健康状態や、体格に合わせて、A食(普通食)、B食(減量食)、C食(減塩食)などの種類がある。

また、土曜日の夜は晩酌デー。



またの名を **そしん温泉!!** と言います。

アルコールを飲むには、楽しいみな夕食時間である。ビール、日本酒を好んで選び、職員の羨望の視線をよそに、実に全く、おいしそうに飲んでいる。

6:00 pm 夕食時間
時四十分。食後の歯磨き、トイレが終わると、男子は自由入浴、女子は介助入浴の時間となる。

女子は、入浴ヘルプとして、実習A班の二人が、月曜日から金曜日まで二日交替で、介助入浴者の歯磨き、体拭き、ドライヤーで髪を乾かすことなど、運番の職員に協力してくれている。



7時三十分 女子の自由入浴が始まるのはこの頃だが、歯磨きが終わってからも、歯磨きやタオル、洗面器を抱えて、風呂場入口の脇にあるソファに数人、お風呂は今か、今かと待ち続けること小一時間。お風呂を楽しみにしている人は、割と多い。

お風呂から出ると、布団を敷いたり、翌日着る洋服を出したり、寝る準備をする。早々と布団に入って寝てしまおう人おれば、テレビを見る人、「えんべしとタイム」に参加する人、自分の部屋で編み物や、刺しゅうをする人、ベッドに横たわりながら、紙にペンを走らせている人、ウォークマンで音楽を聴きながら、鏡の前でポーズをとる人など、夜の過ごし方は、人様々。また、七時三十分ごろからは、パジャマに着替えた一階の人たちが、二階や女子寮にやってくる。

8:30 pm 夜のお茶タイム

この頃、実習A班で外へ動きに行っている人たちが次々に帰院し、みんなに連れて来られて食事をとる。

まだ起きている人で、食べたい人が食堂へやって来る、自由参加の夜のお茶タイム。お茶、おせんべい、「果物」の日替わりメニュー。お茶タイム参加者は、もう一度歯を磨く。

学院の消灯時間は、十時。しか



し、眠い人、疲れた人から床に就くので、起きている人は大声をたてるわけにはいかない。みんなでのんびりとテレビを見ながらくつろぐことが多い。最近では、女子一階ロビーにある、ホカホカカーペットの人が張りこみ、腰を温めながら四方山話を花を咲かせている。

10:00 pm 消灯時間

「おやすみ」という言葉が、口々に交われ、みんなが居室にもどると、電気の消えたロビーや廊下はガランとしてしまう。暗闇にボツンと残された当直の職員は、一抹の物寂しさを感じながら、ゴミ集めや掃除に精を出すのである。こうして素心の一日は終わる……



※土曜の夜に面白いドラマを見ている時はこの限りではない。

素心学院って、な~に???!

みなさん、素心学院に通所部があるのを知っていましたか? 昨年度までは地域・サービス事業として、地元大磯町より7名が通っていました。今年度からは入所部と同様に通所部として行われることになりました。定員も10名になり二宮町や茅ヶ崎市からも通所して来るようになりました。(来年度は更に5名増える予定)

通所方法としては自転車やバス、電車などを使って来る人や、学院の送迎車で来る人がいます。学院で送迎する人の中には、車を待ち切れず通りまで迎えに出てくる人もあれば、車が着いたのを見てから、たばこを一服して「さて、行くか」とばかり腰を上げる親方みたいな人もいます。このは作業においても肝心要、紙の漉き込み作業をやっています。家が近いのが災いして、学院までの坂道を毎日歩いて歩いて来る人もいます。(お陰で運動不足は解消されています?) 坂道で見かけたら、どうぞ声をかけてあげてください。

学院では入所者と同じ日課を過ごします。火曜日のクラブでは各自の好きなクラブに所属し、他の院生とも交流しています。「その他の曜日はどうしているか?」って、もちろん、作業をしています。2名は回収班へ行っています。8名は通所部で牛乳パックを原材料に和紙のように手漉きはがきを一枚一枚手作りしています。大磯の生協で売らせていただいています。是非、一度お試し下さい。〈M〉



通所部

素心の夜はふけて

こっそりこっそり……のぞいてみたのです。

虫窪24番地



女子2FのロビーはN.IさんがひびりTVをみています。

この時間の女子2Fはとて静かです。自室でT.MさんはTV N.Yさんは明日の洋服の準備 ウホクマンを削っているのはK.Tさん トランプであそんでいるのはS.Nさんです。

→!!
そぞろと南窓のしほ。もう寝るをたてかねる人が男子8名、女子7名です。おやすみなさい……

介助組の終了した男女それぞれのお風呂には、1日の疲れをいやすため、のんびり入浴する人々の姿がみられます。この時男子3名、女子5名の方がそれぞれ利用してました。

男子2F ひと静かにぞしたくて自室にいる人もいます。M.Dさん H.Sさん Y.OさんはそれぞれTV。H.Tさん Y.Kさんはホーっとしていました……それもいいよね。

見っ!!
男子2Fの洗面所ではK.Oさんが洗濯中。

そして食堂前の廊下にはドア越しに取員室を見つめている T.Lさん Y.Iさん K.Nさんがウーグーと見ている K.Sさん H.Tさんのお姿……そして食堂のドアに向かひまわっている Y.Tさんが

光ケージの曲が直にさるはあと 思ったらT.Kさんがラジカセ片手に食堂にむかひ歩いて来た

男子1FのホールにはM.Aさんが1人ゆたりとソファを陣取ってTVをみっていました。

どこの横の廊下でひとりラジカセを聞くK.Iさん!!

じゃあ男子2FのロビーのTVほと申しますと、殆んど毎日1Fより出張してくるA.Iさんを筆頭に5名の男性が静かにTVにみつけています。

何とにぎやかなTVをみているのか 井戸端会議をしているのか 女子1Fロビーはまじに女の園。人数はえっと……7名。プラス本日の白一点はM.Hさんです。

8:30のお物を前にして、食堂にははやばやと椅子にすわって待つ人。カウンターにお茶菓子や取員に(?) 熱い視線を送っている人。男子2F & 女子当直者はひとりの厨房へ入りおかつの準備を始めたりあります。

男子2F & 女子当直者はひとりの厨房へ入りおかつの準備を始めたりあります。

夜のろりガラス。モウ1人の男子1Fの当直者は、思ひ思ひの場所へと散らっていた1階の住人の方々の様子をみている。

マハースをくすくすい M.Hさん どのにか布田敷さか 終わった様です。

真面目なK.Nさん。今日は女子2F洗面所のタイルを交換してくれていました。ありがと!!



素心歳時記

★10月10日

晴天に恵まれたこの日、素心学院では「SOSSHINPIC'89」と銘打った運動会が開催された。昨年女子寮改築の為中止となった運動会、今回は狭いも新たに登場した。午前・午後との二部構成となり趣向を凝らしたそれぞれの競技に、皆心地良い汗を流し歓声を上げた。石神台子ども会をはじめとする地域の皆様やボランティアの方々の温かな協力を得、大成功のうち幕を閉じた。

★素心学院出店す

10月8日 大磯町商工会青年部の主催する「さざんか祭り」そして、11月3日 神奈川県生活共同組合中地区の主催する「生協まつり」に、それぞれ出店した。手作り薬書や古本、カレンダー等を販売し、好評を得た。



▲富士銀行平塚支店長より 助成金を贈る中。

★11月10日

富士記念財団より、90万円の助成金を頂く事になった。これにより、通所部の定員が5名増員になることに伴う作業棟増築工事ができるはこびとなった。

★11月18日

毎年、年末が近くなる頃、緑の制服に身をかためたダンス・クルー旧名「長崎ランドリー」の番帳が来院して下さる。今年は27名が来院し、グラウンドの清掃や整備を行なって下さった。



★11月23・29日

西友二宮店3階ギャラリーにて、恒例となった「素心展」が開催された。今年は特に少しでも多くの人が来場しやすい様な雰囲気づくりに力を入れ、講師の方々に協力を頂き、ひと味違った「素心展」となった。

☆☆関係各機関の皆様のおかげに、心から「ありがとう」の一言を……

光陰矢の如し、素心に入所して早くも十年が経ってしまいました。
こちらの施設で落ち着かせて頂き家族一同心から感謝致し、本人も我が家の様な気持ちになつて居る今日此の頃です。私共も安心して仕事に従事している次第です。
かえり見ますれば、素心にお世話になる以前、四ヶ所も点々と落ち着かない生活を送って参りました。
不幸の始まりは生後八ヶ月の夏の事、三十八度、九度は五日位は続いた事でしょう。とりあえず最寄りの評判の良い小児科医で何人かの先生の診察を受けました。が、どなたも見立ては風邪とのこと。万手手をつくして下さいましたが、一向に良くならず横濱国立を紹介され直ちに入院、三日間は一進一退といった具合です。
四日、五日と経ち徐々に熱が下がったものの、診断は原因不明との事でした。先生に尋ねたところ「大した事はないでしょう。普通のお子さんより少々遅れるかもしれないが心配はない」との事でした。

第3弾 追跡レポート
楽しくなければ、施設じゃない。
実習グループ夜の外出



夜遊びに行くのは、なんだか変にワクワクするものだ。今夜のボーリングに参加する5人も、夕食の時から落ちつかない。
「俺ははまりきってウマイよ。オマエ知らねーだろ。俺はストライクしか投げねーんだよ」
「俺、言っとくけどオマエには負けない」
「オマエ全部ストライクだといつか知ってるか?」
「俺は50だぞ」
夕方から降り出した雨に行きたくないなと思っている職員など関係なしに、車の中でもハチの巣をつついたようにしゃきまわっている。だんだんこっちは楽しくなってくる。ボーリング場につく頃には、ボルテージも最高!!!
車が止まると加藤君が走り出す。つられてみんなも走り出す。雨が降ってるからだと思っただけではない。ワクワクしてしようがないのだ。遅れて職員がボーリング場に入ると加藤君がまだ走ってる。あっちへ行ったりこっちへ来たり、そっちを見つとまたこっち、どうしていいかわからない。
「加藤、おちつけ!」
今夜の5人は皆、養護学校を卒業したばかりの人たちで、学生時代に何度かボーリングの経験があるらしく、腕まえがなかなかの

退院してからもう、あま、東京、日赤の有名な小林貞樹博士をある医師に紹介され、早速主人と和之を連れ診察に行きました。その結果は、もしやと思っただ通り、脳性小児麻痺と診断されました。あの時の熱で既に右半身は麻痺してしまつたのでした。東京から家送泣き〜帰り、待ちかまえていた父母もがっくりと肩を落としてしまいました。その日は何事も手につかない有様でした。

二人で歩んだ
長かった道
回収A班 大八木文江
でもこれで弱気になってしまつてはと氣を取り戻し、それから良いと云われる事は何でも致し、毎日遠方までマッサージに通い少しでも良い方向へと祈る思いでした。それから度々ひきつけを起した。ドキッとさせられたものでした。近所には同年に生まれたお子さんが八人も居りました。一年、二年と経つにつれ歩行出来るようになり片言も言えるようになって、和之はハイハイは勿論口もきけずもどかしがり意ることの多

「この言い方っておかしいな、なにがおかしいんだろうな」
たしかに、職員室は仕事場です。からDesk Workする人もいる。休憩の人は、奥のソファで休むところもあります。
以前から職員室をのぞいた職員が「やっぱこの中っていろいろおいであって、学院の中では、窓からながめるのに一番おもしろいところだなあ」そんなですね。
電話があるし食物もある。大口をあけて笑っている人もいる。あんなにカセットが、洋服がそのまま置いてある。学院の空間の中で一番展開があつて刺激的で、自由にコーヒーが飲め、煙草を吸い談笑し、くつろげる。楽しみが集結している場所なのです。そこへ誰も行きたいと思ふのは当然なのではないでしょうか。
「明日の朝は早くから仕事だ。今日の楽しみが明日の仕事に、明日の仕事がいつかの楽しみにつながつてくれたらいいと思う。楽しくなければ施設じゃない」
(H)

まいまい、かねてより右足痛正の為手続きがとつてあつたゆうかり園に入園出来、その年の九月から一年間ゆうかり園での生活が始まつたのでした。
一年で退園して、その時平塚に肢体不自由児養護学校が設立され先生自らお尋ね下さつて面接され入園出来る様になりました。
二年半位過ぎた時、幸ヶ崎市の福祉の方のお世話で(前々より依頼しておいた)七沢リハビリの入所となつた訳です。七沢では二年間が目安ということで入所が決まり、家の事情で三年半お世話になりました。そこで素心を紹介され丁度男子棟が出来た年、入所が決まり五月からお世話になったのでした。
家庭的な雰囲気のある学院で本人もやつと落ち着いたように、今迄に味わつた事のない生活に満足した事でしょう。旅行又は色々な行事にどんなにかエンジョイする事が出来る幸福、本当に喜ばしい事です。
又、この院の一人一人個性のある方々に、何時も何事にもいとうことなく接して下さる先生方には頭が下がる思いです。施設長さん始め、先生方、役員の方々色々ありがとうございます。
院生、親御さんも一年毎に年をとつて行く訳ですが、体に氣をつけて、子供達の為にかんはつて行きたいと心掛けております。

ありがとうございます。
素心学院は多くの方々に支えられて、様々な活動を行っています。
東京築地中央市場福祉報徳会という団体から、3年前より毎年多額の寄付を戴いております。この会は、東京の築地市場で取引をされている業者の方々が、福祉の為にと基金を出し合つて作っているものです。
今年は戴いたお金を、古くからの通所用送迎ワゴン車の買い替え費用にあてさせていただきます。新しい車はブルーに鮮やかなストライプの入った9人乗りのワゴン車で、毎日通所者の送迎に大活躍しています。
東京築地市場の皆様に、ほんとうにありがとうございます。
素心学院



しかし、毎日毎日の仕事の中の執拗な繰り返しや休憩中の造作のない会話、職員室としてつらいところがあるんです。この疲れ、あせりというものが、院生と接する時の心の余裕につながらないことを考えると、一概にすべて受け入れることができないのは、私だけではないと思います。
院生の生活を豊かにするためのたまえない努力との矛盾に私自身強い葛藤があります。何をどうしていったら、この問題が解消されていくのか考えてみたいと思ひます。忘れてならないことは、この中心的存在は院生の暮らしにあるのだということ。よりよい暮らしにするために、私達は援助する役割をもつということです。院生の中の職員室の存在を考えると、興味をひき、行きたい気持ちになるような事柄が、現在の生活の中で生かされているでしょうか。
自由に嗜好品(コーヒー、お茶)がつくれる。お金がある。各自分の机がある。これらが職員室を飛び出して生活の中に浸透しなれば、院生の皆さんは楽しみを求めて職員室へ来るでしょう。施設の機能面を考えると、なくてはならない職員室が視点をかえることによって、そこに住む人達の生活を考えるパロメーターになっていきます。
(回収A班 伊藤晴美)

「この言い方っておかしいな、なにがおかしいんだろうな」
たしかに、職員室は仕事場です。からDesk Workする人もいる。休憩の人は、奥のソファで休むところもあります。
以前から職員室をのぞいた職員が「やっぱこの中っていろいろおいであって、学院の中では、窓からながめるのに一番おもしろいところだなあ」そんなですね。
電話があるし食物もある。大口をあけて笑っている人もいる。あんなにカセットが、洋服がそのまま置いてある。学院の空間の中で一番展開があつて刺激的で、自由にコーヒーが飲め、煙草を吸い談笑し、くつろげる。楽しみが集結している場所なのです。そこへ誰も行きたいと思ふのは当然なのではないでしょうか。
「明日の朝は早くから仕事だ。今日の楽しみが明日の仕事に、明日の仕事がいつかの楽しみにつながつてくれたらいいと思う。楽しくなければ施設じゃない」
(H)